

□□

□□

第25回日本自費出版文化賞の応募期間があと1ヵ月となりました。
昨年は800点越えでしたが今年は苦戦しています。
2月21日現在の応募数が268点で昨年同時期より30点以上少ないようです。
まだ応募していない事業所は作品を少しでも多く出していただければ
助かります。
よろしく願います。

□□

□□

2. お知らせ … 小池一子展開催 (1/22~3/21)
アーツ千代田3331 にて

□□

□□

日本自費出版文化賞グラフィック部門の最終選考委員の小池一子さんの
今までの活動を紹介する見ごたえのある展覧会が開催中です。
この『小池一子展』で目を引くのは、無印良品を生み出した思想とその
コピーライト。グラフィックデザイナーの田中一光や服飾デザイナーの
三宅一生とのコラボ。新進芸術家やクリエイターを支える場「佐賀町」の
開設など、コピーライト、編集、翻訳、キュレーションなどの歩みが紹介
されています。(写真添付)
ご興味ある方は足を延ばす価値があり。(川井)

<https://alternative-kazukokoike.3331.jp/>

□□

□□

5. 自費出版事情 … ~会員便り~ No.51

□□

□□

はじめまして個人会員の佐藤左和子です。東京の江戸川区在中です。
印刷や出版の業界には属していませんが、ただ、自費で本を出したい
という方々の思いの詰まった本に触れたり、その思いを聞いたりする
のが好きな者です。
何年か前に文仲の川井さんから日本自費出版文化賞の表彰式のお誘い
を頂き、何度も伺っているうちに、お手伝いがあるのなら参加したい
と思うようになりました。
定年退職して新たな事に興味を持っている頃でしたので、「自費出版本
に光をあてる」というNPO法人日本自費出版ネットワークの活動に賛同し、
お手伝いをしたく個人会員になりました。

思えば40年程前になりますが、手書きのミニコミ誌『みたかきいたか』
に参加して、取材や記事を通して伝える難しさや楽しさ面白さを感じ
ました。そしてそこにある「人と繋がりたい、伝えたい」という思いに
共感してきたので、今回も自費出版ネットワークの活動を通して
「出会いの面白さ、伝える面白さ、人と繋がっていく面白さ」に触れる
事ができたらと思っています。
特に、日本自費出版文化賞の表彰式で「この世に生きた証」ともいえる
受賞者の思いを聞きたいこともあり、表彰式の運営の一員として参加さ
せて頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤 左和子

□□ _____ □□

☆ 知っとこ 岐阜 ☆ (再)その 10

□□ _____ □□

岐阜のおすすめスポット①

今、岐阜でおすすめのスポンは?と聞くと、多くの人が「みんなの森ぎふメディアコスモス」と答えます。地元人は「メディコス」と呼ぶこの建物は、2015年に開館した岐阜市立中央図書館、市民活動交流センター、展示ギャラリーなどからなる複合施設です

メディコスの設計は建築界のノーベル賞とも言われる「プリツカー建築賞」を受賞した世界的建築家、伊東豊雄氏が担当しました。フロアを見上げるとメディコスの象徴ともいえる、ゆるやかな波を描く「木造格子屋根」、そしてそこから吊り下がる電気傘の「グローブ」が目に飛び込んできます。どちらも日本初の建築手法で、ヨーロッパの建築家も視察に来るほどの技術だそうです。天井には岐阜県産の東濃ヒノキが使用されていて、館内に入ると優しい木の香りに包まれます。

また、毎年冬になると、メディコスの西側エリアにある全長240mの並木道に約14万球のイルミネーションが施されます。淡い光に包まれた並木道は遮るものが何もなく、別世界に迷い込んだのではないかと思うほど美しいです。

写真を掲載できないのが残念ですが、興味のある方は是非「みんなの森ぎふメディアコスモス」にお出かけ下さい。

「岐阜で1番オシャレ!」といわれる建物が図書館とは何とも素敵だと思いませんか?

株式会社 岐阜文芸社 飯尾みゆき

★あとがき

小池一子展、行ってみたいですね。すごい方が選考委員をされているんだと改めて感心しました。幅広い活動や、しなやかな生き方は憧れます。

新入会員の佐藤さまのお話を読んで、やはりリアル開催の表彰式は伝わる熱量が違うなと感じます。今年こそは開催できることを祈ります。

気づいたら3月! 小さな伏見人形のお雛様を出して、桃の花を活けて、束の間の桃の節句を楽しみたいと思っています。

最後までお読みくださりありがとうございました。
